

鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成23年7月8日)

泰伯第八

4 曾子^{そうし} 疾^{やまいあ} 有^{もうけいし} 之^{これ} を問^と う。曾子^{そうし} 言^い いて 曰^{いわ} く、鳥^{とり} の 将^{まさ} に 死^し なんと する や、其^そ の 鳴^な く や 哀^{かな} し。人^{ひと} の 将^{まさ} に 死^し なんと する や、其^そ の 言^い う や 善^よ し。君^{くん} 子^し 道^{みち} に 貴^{たつ} ぶ 所^{ところ} の 者^{もの} 三^{みつ} つ。容^{よう} 貌^{ぼう} を 動^{うご} かして、斯^{ここ} に 暴^{ぼう} 慢^{まん} に 遠^{とお} ざかり、顔^{がん} 色^{しよく} を 正^{ただ} しくして 斯^{ここ} に 信^{しん} に 近^{ちか} づき、辞^じ 氣^き を 出^{いだ} して、斯^{ここ} に 鄙^{ひばい} 倍^{とお} に 遠^{へんとう} ざかる。籩^{すなわ} 豆^{ゆうし} の 事^{そん} は、則^{すなわ} ち 有^{ゆう} 司^し 存^{そん} せりと。

曾子が病気になって、孟敬子という魯の国の大夫が見舞いに行きました。

曾子が孟敬子に言うには、鳥が今まさに死のうとする時は実に悲しい声で鳴くものです。人も今まさに死のうとする時は、本音で、その人の為になる非常に良いことを言うものです。(だから、私の最後に申し上げる言葉を心に留めてください)

君子たる者は、その道において三つのことを心がけねばならない。顔の表情や立ち居振る舞いに注意して相手に良い印象を与えるようにすれば、暴力や周りから侮られることはなくなる。顔つきを厳然とすれば、周りから信頼が寄せられるものだ。発言する時は語氣に注意すれば、野卑で不合理な言葉からは遠ざかる。祭祀の時に供物を盛る高坏(たかつき)の器をどうするか、そういう細々したものは役人に任せればよい。

現在の政治家に照らし合わせて考えましょう。

立ち居振る舞い・顔つきに注意して、良い印象を与えるようにすれば、回りから侮られることはない・・・という部分。菅さんに限らず、国会で質疑応答をしている時の大臣の顔つきはどうでしょうか。官房長官の枝野さんは、容貌は動かしません。無表情を努めているから、侮られることはあまりないでしょう。

顔つきを厳然としていれば周りから信頼が得られる・・・という部分。今の国会の中であまり見たことがありません。それぞれの議長役はこういう態度が良いと思いますが、最近の方は議長役をしないで中の輪に入ってしまうので、信頼する者は信頼するが、信頼しない者は信頼しないとはっきり分かれてしまうのが困るところだと思います。

発言する時は語氣に注意すれば、野卑で不合理な言葉からは遠ざかる・・・という部分は、政治家はそのまま考えて戴けばよいと思います。国会での論戦は、この文章とはまるで逆です。菅さんの発言中に周りでやじを飛ばしたりする。これでは遠ざかるどころか、完全に鄙倍に近づく行為です。

供物を盛る器をどうするか、細々したものは役人に任せる・・・という部分。「政治家主導」を強調して役人を使わないと、まるっきり官僚に馬鹿にされてしまうと、仕事も進まなくなる。役人にはきちんと役人のすべきことを任せるのが良いと思います。供物を盛る器をどうするかなどと、いちいちやっているような政治家では役に立たないということです。

5 曾子そうしいわ曰く、能のうを以て不能もつ ぶのうに問とい、多たを以て寡もつ かに問とい、有あれども無なきが若ごとく、実みつれども虚むなしきが若ごとく、犯おかせども校むくいず。昔者むかし 吾わが友とも 嘗かつて斯ここに 従じゅうじ事じせり。

曾子が言うには、豊かな才能を持っているのに、あまり才能のない人にわざわざ質問をしたり、広い知識を持っているのに、少ない知識しか持っていない人に敢えて質問をする。あっても無いように振舞う。攻撃されても反抗しない。目立たないように目立たないように生きていく。私の旧友（顔淵・子貢・仲弓）は皆、こんなふうに謙虚さを持っていた。

孔子も祭礼にあたっては、以前から祭礼に従事している人たちを尊重し、こと細かく聞いて行っていましたし、それが礼儀だとお弟子さんに教えています。

今の時代は、無いにもかかわらずあるようなふりをする。ここに書いてあることとは逆の動きをしている人が多いと感じます。

6 曾子そうしいわ曰く、以て六尺もつ りくせきの孤こを託たくすべく、以て百里もつ ひゃくりの命めいを寄よすべく、大節たいせつに臨のぞみて奪うばうべからざるは、君子人くんしじんが、君子人くんしじんなり。

六尺の孤とは、幼い孤児です。

曾子が言うには、両親を亡くした幼い子供の面倒を見つつ、百里四方を治める国家を任せることができる。重大な事件があったとしても、志を奪われることがない。そして子供をきちんと育ててゆく。これは君子と言ってよいだろうか、いやいやまことに君子と言ってよいだろう。

確かに、天涯孤独になった子供の面倒を見ていくような人は素晴らしいと思います。なかなか出来ることではありません。東日本大震災でも、両親を亡くした子供さんが沢山出たと思います。祖父母や親戚がその子の面倒を見ることができればよいと思いますが、縁もゆかりもない人間が財産目当てで子供の面倒を見るような場合は、「六尺の孤を託すべ

く」とは似て非なるものだと感じます。